



アツミゲシ (セティゲルム種)

③ ハカマオニゲシ(ブラクテアツム種)

(学名：パパヴェル・ブラクテアツム)

1. 初夏に、径10cmくらいの鮮やかな深紅の大きな花を咲かせます。花びらは4～6枚で、基部に黒紫の鮮明な斑点があります。
2. 花びらのすぐ真下に4～6枚のハカマ(苞葉)があります。これは、果実が出来て、果実の下の茎(果梗)が枯れるまで残り、ハカマのように見えるので、「ハカマオニゲシ」の名前の由来となりました。
3. 草丈は60～100cmで、葉や茎全体が白く硬い毛で覆われています。
4. 葉は濃緑色で、鳥の羽のような形に深く切れ込んでいます。地面に近い部分の葉(根出葉)は密についでおり、長い柄(葉柄)があり、長さは柄を含め20～25cmです。
5. つぼみを覆う2枚のがく片の表面には、硬く伏した(寝た)毛が多数ついています。
6. 果実は、表面に毛がなく、青緑色です。

※ ハカマオニゲシは、後述する「植えてもよいけし」の「オニゲシ」と、外観が非常に良く似ています。

ハカマオニゲシの「鮮やかな深紅の花の色」、「花びらの基部に存在する鮮明ではっきりした黒紫の斑点」、「つぼみの表面(がく片の表面)の伏した(寝た)硬い毛(オニゲシの毛は直立している傾向がある)」は、二種の植物を見分ける手がかりです。

※ ハカマオニゲシは、「オニゲシ」あるいは「オリエンタルポピー」の名で園芸用に出回ることがありますので、注意が必要です。

ハカマオニゲシ(植えてはいけないけし)とオニゲシ(植えてもよいけし)の写真は比較できるよう、次頁に掲載しています。